

## 2 専門科目

不動産学科学生全員に共通する目標は以下のとおりです。

- ① 不動産学を構成する法学、経済学、経営学、工学について、基本的な考え方、考察や分析の手段、判断の基準がわかるとともに、不動産学の論考に必要な以下の知識を身につけていること。
  - ② 不動産関連ビジネスにかかる基幹的な国家資格である、宅地建物取引士に求められる能力を身につけていると客観的に認めることができること。
  - ③ 不動産にかかる開発・流通・金融・経営・管理などをカバーするビジネス、ファイナンス、または、デザインについて、その仕組みがわかるとともに、これを適切に行う能力を修得したと認めることができること。
- これに加えて、特定分野の専門性を培うために、2年次から3つのコースのいずれかを選択し学修していくこととなります。コースの選択に当たっては、各コースの概要及び教育課程表等を基に慎重に行うのはもちろんのこと、所定の時期に登録を完了しない場合、当該年度（学期）の履修は認められませんので注意してください。

コース名	狙い・進路	カリキュラムの特徴
ビジネスコース	<ul style="list-style-type: none"> <li>○不動産ビジネスを適切に行うための基本的知識を身につける。特に、不動産の取引や事業経営に必要な法制度、経営手法、不動産の基本情報についての知識を修得する。</li> <li>○不動産業の流通・管理・企画部門、一般企業の事業を継続する際に用いる不動産（CRE）に関わる部門での活躍が期待される。</li> </ul>	○不動産学の基礎科目の学修を踏まえた上で、不動産ビジネスに必要となる、経営・法律の関連科目を中心に構成されている。
ファイナンスコース	<ul style="list-style-type: none"> <li>○金融に関する基本的内容の学修を基に、不動産市場分析、不動産投資評価、不動産金融に関する知識を修得し、客観的な資料をもとに、合理的な意志決定ができる（能力を身に付ける）。</li> <li>○金融業、不動産業の資金調達部門、一般企業の財務部門、不動産鑑定業、コンサルタント事務所などでの活躍が期待される。</li> </ul>	○不動産学の基礎科目の学修を踏まえた上で、ファイナンス、鑑定評価、金融関連の法、不動産経営、会計関係の科目を中心に構成されている。
デザインコース	<ul style="list-style-type: none"> <li>○不動産の空間的・物理的性質に関する基本的内容の学修を基に、作図読図能力、不動産の企画開発、活用提案能力、これらに関わる情報処理能力を修得する。</li> <li>○不動産業の企画開発・設計・流通・管理・リフォーム分野、ハウスメーカー、建設業、設計事務所、土地家屋調査士事務所、自治体などでの活躍が期待される。</li> </ul>	○不動産学の基礎科目の学修を踏まえた上で、建築・都市・不動産管理関連の科目を中心に構成されている。建築士の受験資格を得るのにふさわしい内容にもなっている。

## ビジネスコース

ビジネスコース主要科目の標準的な履修年次・学期

年次	学期	授 業 科 目		
1年	通 年	●不動産学基礎演習（4単位）	●不動産取引演習B（4単位）	
	前学期	●建築一般構造論	●不動産法入門	
	後学期	●財産法の基礎 ●不動産公法	●ミクロ経済学	●都市計画の基礎
	集 中	●不動産取引演習A（4単位）		
2年	—	●不動産学のための数学と統計 ○債権法（4単位） ○会計学の基礎 ○測量と地図 ○ハウジング論	●不動産取引演習C（4単位） ○マクロ経済学 ○経営分析 ○地籍と不動産登記 ○物権法	○担保物権法 ○土地と住宅の経済学 ○都市計画 ○不動産情報処理演習 △都市と建築の基本法
3年	—	●Basic English for Real Estate Business ■会社法 □家族法 □不動産経営戦略 □不動産管理演習（4単位）	●Advanced English for Real Estate Business ■不動産キャリアデザイン □不動産トラブルと法 □集合住宅管理論 □都市環境と防災	●不動産学研究（4単位） □借地借家法・区分所有法 □不動産金融法・不動産税法 □不動産経営計画 □建築設備
4年	通 年	●不動産学卒業演習（4単位）		
	前学期	□建築生産		

注意 1 ●：学科共通必修科目（15科目42単位履修） ○：学科共通選択必修科目（12科目26単位から20単位以上履修）  
 ■：コース必修科目（2科目4単位履修） □：コース選択必修科目（11科目24単位から18単位以上履修）  
 △：選択科目（一部科目のみ掲載） ※（ ）内は単位数。記載のない授業科目はすべて2単位。

注意 2 卒業要件単位数及び履修方法の詳細については、「教育課程表」等でご確認ください。間違いのないよう必要な単位を修得してください。

注意 3 授業科目の開講期は変更となることがあります。また、2年次及び3年次の開講期は、授業時間割を参照してください。

## ファイナンスコース

ファイナンスコース主要科目の標準的な履修年次・学期

年次	学期	授 業 科 目		
1年	通 年	●不動産学基礎演習（4単位）	●不動産取引演習B（4単位）	
	前学期	●建築一般構造論	●不動産法入門	
	後学期	●財産法の基礎 ●不動産公法	●ミクロ経済学	●都市計画の基礎
	集 中	●不動産取引演習A（4単位）		
2年	—	●不動産学のための数学と統計 ○債権法（4単位） ○会計学の基礎 ○測量と地図 ○ハウジング論 △都市と建築の基本法	●不動産取引演習C（4単位） ○マクロ経済学 ○経営分析 ○地籍と不動産登記 ○物権法 △不動産政策史	○担保物権法 ○土地と住宅の経済学 ○都市計画 ○不動産情報処理演習 □不動産数理 △不動産実務演習 I
3年	—	●Basic English for Real Estate Business ■不動産金融論（4単位） □不動産金融法・不動産税法 □不動産鑑定評価論（4単位） □不動産経営戦略 △集合住宅管理論 △海外不動産事情	●Advanced English for Real Estate Business □会社法 □環境法 □不動産会計財務論 □不動産経営計画 △まちづくり演習（4単位）	●不動産学研究（4単位） □家族法 □計量経済学 □不動産ファイナンス（4単位） △都市と環境の経済学 △都市開発と社会基盤
4年	通 年	●不動産学卒業演習（4単位）		

注意 1 ●：学科共通必修科目（15科目42単位履修） ○：学科共通選択必修科目（12科目26単位から20単位以上履修）  
 ■：コース必修科目（1科目4単位履修） □：コース選択必修科目（11科目26単位から18単位以上履修）  
 △：選択科目（一部科目のみ掲載） ※（ ）内は単位数。記載のない授業科目はすべて2単位。

注意 2 卒業要件単位数及び履修方法の詳細については、「教育課程表」等でご確認ください。間違いのないよう必要な単位を修得してください。

注意 3 授業科目の開講期は変更となることがあります。また、2年次及び3年次の開講期は、授業時間割を参照してください。

## デザインコース

デザインコース主要科目の標準的な履修年次・学期

年次	学期	授業科目		
1年	通年	●不動産学基礎演習（4単位）	●不動産取引演習B（4単位）	
	前学期	●建築一般構造論	●不動産法入門	
	後学期	●財産法の基礎 ●不動産公法	●ミクロ経済学	●都市計画の基礎
	集中	●不動産取引演習A（4単位）		
2年	—	●不動産学のための数学と統計 ○債権法（4単位） ○会計学の基礎 ○測量と地図 ○ハウジング論 ■住宅計画 □建築史	●不動産取引演習C（4単位） ○マクロ経済学 ○経営分析 ○地籍と不動産登記 ○物権法 ■住宅地計画実習	○担保物権法 ○土地と住宅の経済学 ○都市計画 ○不動産情報処理演習 ■デザインの基礎演習（4単位） □都市と建築の基本法
3年	—	●Basic English for Real Estate Business □集合住宅管理論 □不動産管理演習（4単位） □建築環境計画 □構造力学Ⅰ △不動産トラブルと法 △不動産経営戦略 △建築構造計画 △材料学実験	●Advanced English for Real Estate Business □不動産経営計画 □都市開発と社会基盤 □建築材料学 □地理情報システム（4単位） △環境法 △都市環境と防災 △インテリアデザイン演習	●不動産学研究（4単位） □まちづくり演習（4単位） □設計製図A □建築設備 △開発行政法 △都市と環境の経済学 △建築計画 △建築環境デザイン
4年	通年	●不動産学卒業演習（4単位）		
	前学期	□設計製図B	□建築生産	

注意 1 ●：学科共通必修科目（15科目42単位履修）

■：コース必修科目（3科目8単位履修）

△：選択科目（一部科目のみ掲載）

○：学科共通選択必修科目（12科目26単位から20単位以上履修）

□：コース選択必修科目（15科目36単位から16単位以上履修）

※（ ）内は単位数。記載のない授業科目はすべて2単位。

注意 2 卒業要件単位数及び履修方法の詳細については、「教育課程表」等でご確認ください。間違いのないよう必要な単位を修得してください。

注意 3 授業科目の開講期は変更となることがあります。また、2年次及び3年次の開講期は、授業時間割を参照してください。

## ○履修科目に応じた資格

### 1. 建築士試験受験資格【卒業後、二級建築士の受験資格が得られる科目の一例】

●都市計画の基礎	●建築一般構造論	■デザインの基礎演習	■住宅計画	■住宅地計画実習
○ハウジング論	□都市と建築の基本法	□まちづくり演習	□不動産管理演習	□建築史
□設計製図A	□建築環境計画	□建築材料学	□建築設備	□構造力学Ⅰ
□建築生産	△建築計画			

デザインコースは、上記の科目を取得しやすい構成をとっています。

参照➡P.46「建築士（一級・二級・木造）試験受験資格取得方法」

### 2. 商業施設士補資格

所定の単位を修得した者は、大学からの推薦により商業施設士補の資格認定申請を行うことができます。

参照➡P.47「商業施設士補申請手続」

## ○海外不動産に興味のある学生のための科目群（どのコースでも選択可能）

建学の精神に基づいて、広く国際未来社会で活躍し得る有為な人材の育成をめざす本学部では、“海外不動産教育科目群”を用意しています。国際社会、海外不動産に関心のある学生は、所属するコース毎のカリキュラムと並行して、卒業までに以下の科目群（必修科目を含む）の履修を勧めます。

### 海外不動産教育科目群

外国の多様な不動産制度、不動産に関わる慣習を学び、不動産ビジネスに必要な語学力を身につけます。将来、国際的なビジネスに携わることを目指す人のための履修科目群です。

- Basic English for Real Estate Business（不動産ビジネスのための基礎英語：必修）
- Advanced English for Real Estate Business（不動産ビジネスのための実践英語：必修）
- 海外不動産事情
- 不動産特別実習\*（海外研修：イギリス）
- 異文化実地研修AまたはB\*（海外研修：中国または韓国）

\*：選抜があります。また、研修先については変更されることがあります。

各コースには、開講される授業科目の性質や設備の関係上、定員が定められています。

## [1] コース登録

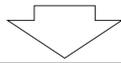
### 定員

コース名	定 員		備 考
	2017年度以降 入学生	2010～2016年度 入学生	
ビジネスコース	70名	90名	定員の数は目安とし、3年次編入学生を除きます。
ファイナンスコース	50名	70名	
デザインコース	60名	90名	
計	180名	250名	

### コース所属までの流れ

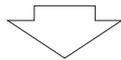
**申請手続**  
(1年次：12月～1月)

①不動産学基礎演習中に行われるコースのガイダンスを受ける。  
②期日までにコース希望票をクラス担任に提出する。



**選 抜**

各コースの定員を超える希望がある場合は、1年次の成績、授業の出席状況等を考慮し、総合的観点から学部の裁量で選抜を行う。



**決 定**  
(2年次：4月)

① 発表時期：4月（予備発表を事前に行うことがあります。）  
② 発表場所：2101・2103大講義室横掲示板

**注意** 詳細日程等については、別途掲示等で指示します。

## [2] コース変更

ア 原則として、コース登録後の変更は認められません。ただし、3年及び4年次の所定の時期に願い出て許可を得た場合に限り、変更することができます。詳細については、別途掲示等で指示します。

イ 変更は、変更の事由、当該コースの定員、成績及び単位の修得状況等を勘案し、学部長がやむを得ないと判断した場合に許可されます。